

映画「声なき叫び」 上映会＋アフタートーク

性暴力がいかに女性の心身を傷つけ、社会の無理解がいかに被害者を孤立させるのかを克明に描き、カナダで公開後、日本を含む世界的な性犯罪理解の契機をつくった名作「声なき叫び」を上映します。上映後、今日の日本の性暴力被害に対する理解の現状と、作品分析の観点からみた本作の重要性を語るアフタートークを行います。

アフタートーク登壇者

牧野雅子（龍谷大学犯罪学研究センター博士研究員）
高木駿一（映画監督）

*鑑賞上の注意点：作品には性暴力のシーンが含まれます。性被害のトラウマを抱える方、フラッシュバック等の不安がある方は無理のない範囲でご参加ください（シーン中の離席、途中退室可能）。上映中は別室に休憩室をご用意いたします。



声なき叫び
監督 アンヌ・ボワリエ
1978年 / カナダ / 96分

11/27 sat.

- 14:00～16:30
- 場所：2F セミナー室 A・B
- 開場は開演の20分前から
- 参加費：無料 ■定員：30名（先着順）
- 対象：15歳以上（「鑑賞上の注意点」をご確認の上ご参加ください）
- 協力：龍谷大学犯罪学研究センター
- 無料保育あり ※11/13（土）申込可



申し込みはウィングス京都HP
またはお電話にて

note

パープルカフェ Online

更新中！

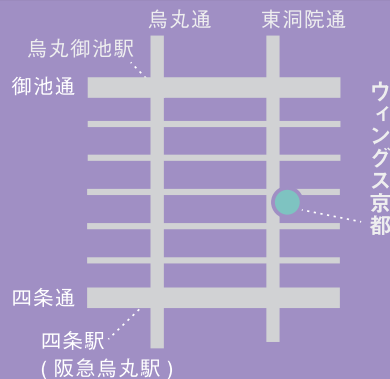
コロナ禍で集い、話し合うことが難しい今、せめてオンラインで「女性」と「暴力」の問題を考える場所をつくらうと、note「パープルカフェ Online」を開設しました！京都で「女性に対する暴力」に取り組む「ひと」のインタビューやおすすめのブックリストなどを掲載中。ぜひ一度アクセスしてみてください。



京都市男女共同参画センター ウィングス京都

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町 262 番地
開館時間：月～土 9:00 - 21:00 / 日・祝 9:00 - 17:00 休館日：水曜日

地下鉄烏丸御池駅（5番出口）
または地下鉄四条駅・阪急烏丸駅（20番出口）下車、徒歩約5分
※ 駐車場はからだの不自由な方の来館時や荷物の搬入用に限りらせていただいています。本施設へお越しの際は、電車・バスなど公共交通機関をご利用ください。
※新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、掲載している内容は変更になる場合があります。



問い合わせ（公財）京都市男女共同参画推進協会 事業企画課

TEL：075-212-8013 FAX：075-212-7460
e-mail：jigyo@wings-kyoto.jp HP：https://www.wings-kyoto.jp/

主催 京都市／企画・運営（公財）京都市男女共同参画推進協会

パンフレットデザイン ... 溝口日向（京都市立芸術大学ビジュアルデザイン専攻3年）



ウィングス京都 1F ロビー
入場無料・申込み不要（一部プログラム除く）

令和元年度の全国 287ヶ所の配偶者暴力相談支援センターにおける相談件数は、11万9276件で過去最多となっています（内閣府男女共同参画局調べ）。DV や性暴力は、被害者の心身を傷つけ尊厳を奪い、その回復には長い年月を要します。そんな中でも、自らサバイバーとして声をあげ、DV や性暴力のない社会をめざした活動をする人も増えています。ウィングス京都では、11月をパープルリボン月間として、女性に対する暴力を考える様々な催しを行います。今年のテーマは「傷と向きあう」。DV や性暴力サバイバーの声に触れ、暴力を許さない社会のためにそれぞれが「向きあう」時間をウィングス京都で過ごしませんか。

※サバイバー…暴力の被害にあいながら、生き延びた人。

傷と向きあう。

パープルリボンとは
女性に対する暴力を根絶するシンボルマークです。

read more!

傷と向きあう。

DV や性暴力は、本来その人が持っていたはずの「自分を大切に思う気持ち」や「人や社会への信頼感」といった大切なものを奪い、心に深い傷を残します。受けた傷をケアし、一步踏み出すまでの道のりには、様々な形の「向きあう」時間があるはず。誰もが当事者だといえる、女性に対する暴力。それを許さない社会のために、一人一人が「向きあう」時間を、ウィングス京都が作ります。



special event



STAND Still

性暴力サバイバー
デジタルフォト写真展

大藪順子氏による性暴力サバイバー（被害から生き延びた人）の声を伝える写真プロジェクトの第二弾。声をあげられない、または、あげないことを選択した性暴力サバイバーたちが、大藪順子氏を講師としたワークショップを通じて撮影した写真を展示します。彼女たち自身が写真を撮り、その写真に想いを写すことで、当事者目線で、内側からサバイバーたちの世界を写しだします。

11/12 fri. — 11/18 thu.

1F ギャラリースペース
平日 9:00 ~ 20:30 (水曜日を除く) 日曜 9:00 ~ 17:00
※最終日は 15:00 まで

オンラインイベント 性暴力サバイバーたちの道のり

写真プロジェクト第一弾『STAND』を立ち上げた経緯や、その第二弾となる今回の『STAND Still』に託された思い、また被害に向き合うことや回復への道のりなどについて講師の大藪順子氏に語っていただきます。また、被害者が声をあげにくい日本の現状や性暴力を許さない社会をつくるために私たちにできることを考えます。

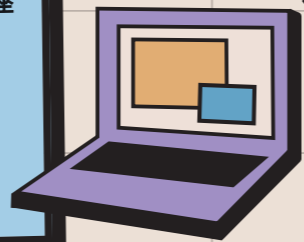
11/13 sat.

時間：14:00 ~ 15:30
定員：50名（先着順）参加費：無料
対象：どなたでも
「Zoom」を利用したオンライン講座



詳細&申し込みは
ウィングス京都HPにて

申し込みバッチ
11/2 tue.



大藪順子

おおよぶ のぶこ

フォトジャーナリスト/フォトプロジェクト講師
シカゴのコロンビア大学卒業後アメリカ中西部の新聞社で働く傍ら、全米各地と日本で約80人の性暴力被害者を取材撮影したプロジェクト「STAND: 性暴力サバイバーたち」がテレビドキュメンタリーとなって反響を呼び、全米各地で写真展と講演を展開。2006年より日本各地でも写真展と講演会を通して性暴力を取り巻く意識改善のため活動を続ける。

1996年～2002年全米報道写真家協会より数々受賞。2002年ワシントンDCよりビジョナリーアワード、2008年よりジャーナリスト賞、2011年シカゴの母校より卒業生受賞。2007年著書「STAND: 立ち上がる選択」出版。2018年より団体Picture This Japanを立ち上げ、社会的弱者といわれる人たちが自ら思いを写すことを通して自身と向き合い、声を見出すためのフォトプロジェクトの企画・運営を行う。

What's
パープルリボン?

パープルリボンとは、
女性に対する暴力を根絶するシンボルマークです。

パープルリボンとは、女性に対するあらゆる暴力をなくすこと、被害にあっている人の安全を守ること、暴力が絶対にあってはならないことを伝え、自分にできることを考えるきっかけになることを目的としています。



パープルリボン月間イベント

11月はウィングス京都館内で
様々な催しを行います。

event
01

DV サバイバーによる報告冊子の配布 『After ～わたしが私でいるために～』 配布場所：1F ロビー

ウィングス京都が2009年より実施してきたDV被害者自立支援講座「わたしが私でいるために」。DVを経験した女性たちが、自分を大切に思える「私」、人を信頼できる「私」を取り戻すための講座です。その修了生による自主グループ「アフター同窓会」の参加者が、仲間と出会い、共にサバイブするまでの軌跡を冊子にまとめました。

冊子では、講座の中で彼女たちが徐々に尊厳を取り戻していく様子や、その時々で発した言葉などが綴られ、どうやって彼女たちが本来の力を取り戻すことができたのかを知ることができます。この冊子を通してDV被害者支援に何が必要なのか考えてみませんか。
協力：わたしが私でいるために アフター同窓会

event
02

DV防止に取り組む団体のパネル展

場所：1F ロビー
京都府内を拠点に、DV防止や被害者支援に取り組む団体の活動内容を、各団体が制作したパネルで分かりやすく紹介します。

event
03

インフォメーション・ブース

場所：1F ロビー
DV被害者支援を行っている京都府内の団体・相談窓口の情報、女性に対する暴力や、ジェンダー平等に取り組む団体の情報を集めたインフォメーションコーナーです。

event
04

女性に対する暴力を考える ブックフェア

場所：1F 図書情報室
DVのみならず、社会のあらゆる場面に存在する女性に対する暴力を知り、考えるためのヒントとなる資料をセレクトしたブックフェアを開催。ブックリストも配布します。

event
05

京都市中央青少年活動センターコラボ企画 「これって、“性暴力”なの…？」パネル展

場所：3F 京都市中央青少年活動センター
学校で、恋人とのデートで、使い慣れたSNSで…実は日常に潜んでいる「性暴力」。あなたはどれだけ知っていますか？関係ない！と思っているあなた。自分と大切な人を守るために、ちょっと考えてみませんか。